

# 銀の道探訪マップ⑩

## 三次市甲奴町く

### 府中市木野山町編



府中市上下町

銀の道は尾道ルートの他に、笠岡にぬけるルートもあった。このルートは三次市甲奴町宇賀の分岐点から甲奴の中心街をぬけ、上下町へ向かっている。

上下は街道の要衝地として栄え、今でも歴史的町並みを残している。

上下から井永の一里塚、水永の猫地藏を過ぎ、行藤（むかばき）を下り、木野山に入る。ここから再び山越えの道に入り、坂根峠を越えて府中市の荒谷町に向けて下っていく。

- この区間の主な見どころ
- ・中山の一里塚跡・宇賀の辻堂
  - ・下野の道標
  - ・大黒屋道標
  - ・旧角倉家の外門 横門
  - ・旧岡田家（上下歴史文化資料館）
  - ・旧警察署
  - ・旧郷宿
  - ・善昌寺の鶯張り廊下
  - ・矢野の岩海
  - ・どうどう岩
  - ・竹内の常夜灯
  - ・坂根地藏
  - ・宇賀の古道
  - ・井永の一里塚
  - ・猫地藏
  - ・木野山の道標
  - ・南山古墳
  - ・吉井寺の備後大仏
  - ・天領代官所跡



## 伝統的街並み

上下には町の中心地に、江の川水系と芦田川水系の分水嶺となる峠があり、ここから町名がついたとも言われる。

古くから交通の要衝として、また江戸時代は天領として、地域経済の中心的作用を果たしてきた。街並みには、「旧岡田家」「上下キリスト教会」明治時代の「旧警察署」大正時代に建てられた劇場「翁座」などが残っており、白壁・うだつ・棟瓦などに、天領の風格が今も漂っている。

歴史的街並みと調和しながら、景観を活かした新しい道づくりに取り組み活動も早くから行われ、地域の人々が来訪者を案内するボランティアガイド制度なども整えられている。



上下の町並み

## 弓神楽

上下町井永地区に「弓神楽」という全国的に貴重な神楽が残っている。これは、地域共同の荒神祭りや、民家で行われる私的な神事などで演奏されるもので、神前に揺輪という台を据え、これに弓を結びつけ、銅拍子や笛の合奏で、弓の弦を打ち鳴らしながら祭文を唱えるというもの。



弓神楽



井永地区

この神楽は、「弓には霊力が備わっている」という古代からの観念に基づくもので、弓祈禱、神弓祭、内神楽とも呼ばれている。かつては、広島県備後地方一円で行われていたが、現在では上下町井永地区にその伝承者が残っているのみである。

## 東宮侍従角倉志朗氏

「角倉志朗」氏は、一九〇三年に上下で生まれ、小学時代をここで過ごしている。その後、京都第三高等学校、東京大学と進み内務省に入省、昭和二〇年初頭に東宮侍従を務めた。氏は戦中、戦後の混乱期に、侍従として当時の東宮を陰で支え、多くの人々から厚い信頼を受けていたようである。

また仕事の傍ら、出家しないで禅の道を究める在家禅者として求道生活を貫き、晩年には、「禅筵（ぜんえん）筆録集」を著している。上下歴史文化資料館には、角倉氏と交流のあった人々の通信書簡が、保管展示されている。



旧角倉家外門

## 田山花袋と岡田美知代

上下出身の女流文学者、岡田美知代は若くして文才を認められ、当時の文豪田山花袋に弟子入りしている。明治四〇年に、田山花袋が発表した作品「蒲団」に登場するヒロインは、この岡田美知代がモデルであった。

上下歴史文化資料館は、旧岡田家を改装したもので、美知代の生涯とその作品などを展示するコーナーをはじめ、彼女が使用していた和室、田山花袋が岡田家を訪れたとき逗留した和室が、再現されている。



再現された岡田美知代の部屋

## どうどう岩と猫地藏

井永には、「どうどう岩」と呼ばれる不思議な洞穴がある。

どうどう岩は、河川による浸食でだんだん現れてきたもので、岩面に滑らかさが少なく、浸食されたのち表面が風化され、剥奪されたものと考えられている。

昔の人は、巨岩や洞穴に神が宿ると信じ、かつてはここに「岩屋荒神社」というお堂があり、地域住民の信仰対象となっていた。洞穴の断層は奥深く、ここから2キロ離れた、水永の「猫地藏」の穴と通じていると言われ、庄原市東城町の猫山にすむ古猫が、この穴をぬけて、水永で往生を遂げたという伝承も残っている。



どうどう岩



猫地藏

### 主な連絡先

- 府中市上下支所 0847-62-2111
- 府中市観光協会上下支部 0847-62-4990
- 府中市上下歴史文化資料館 0848-62-3999

### 銀の道関連ホームページ

- 歴史が薫る白壁の町 上下 <http://www.bes.ne.jp/bingo-e/midokoro/town-jyouge.html>
- みち紀行 温泉津から尾道笠岡へ 上下町 <http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020825.html>

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平18中複第150号)

平18中複第150号

大久保

2006.4



三次から約28km  
大森から約95km

三次から約37km  
大森から約105km

**①中山一里塚跡**  
吉舎と甲奴の境界となる峠の頂付近に一里塚の跡が残っていたが、現在は、塚は敷に覆われ見えにくくなっている。

**②宇賀の辻堂**  
地元では、郷地蔵(ごうじぞう)さんと呼ばれている。銀の道はこの先で「笠岡ルート」と「尾道ルート」に別れる。

**③下野の道標**  
総領町に向かう道との交差点に残っていたと思われる道標。近年の道路改良で新しく作り直され、商店の門先に置かれている。

**④上下大師堂**  
旧街道に面しており、町の入り口となる場所に大師堂が建立されている。今でも、地域の人々の信仰が厚く、供え物が絶えない。

**⑤大黒屋道標**  
上下町の伝統的町並み地区の一角に残されている道標。道路拡幅工事の時、少し移動して残したという。

**⑥旧角倉家の横門**  
この門はもともと代官所跡の門であったが、角倉家が払い下げを受けたもの。すし移動して残したという。

**⑦旧郷宿跡**  
かつて役所の仕事を代行する「郷宿」と呼ばれる公事所があった。その名残を示す虫籠窓やうだつが残されている。

**⑧天領代官所跡**  
幕府の天領であった上下には、代官所が置かれていた。現在は役場支所となっているが、石垣は当時のままだ。

**⑨井永の一里塚**  
井永の古道沿いに今でも一里塚が残る。正面に見える大きな古木の根元には、「南無阿弥陀仏」の名号石が建っている。

**⑩猫地蔵**  
庄原市東城の猫山に住む古猫が、ここで息絶えたと伝説が残る。その霊を慰めるため地蔵尊を安置したという。

**⑪竹内の常夜灯**  
水永の峠を越えてきた道は緩やかに下りながら、小集落を縫うように進む。道沿いには今も常夜灯や辻堂が残っている。

**⑫木野山の道標**  
木野山町の旧街道沿いに残っている小さな道標。府中という字が刻まれているのがわかる。

**⑬坂根地蔵**  
「かさ地蔵」とも言われ、昭和の初め頃までは近在に知れわたり、多くの参拝者でにぎわっていた。

**⑭荒谷の古道**  
木野山からの峯越えルートを下ると、府中市荒谷にはいる。当時の道筋が残されており「スサノノミコト」の伝説がある。

凡例			
	銀の道(車)※1		車輛迂回路
	銀の道(歩)※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ(車イス可)
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道(道路幅も狭く通行困難な部分あり)。  
※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む(家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。  
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

複製不許可